

地域安全まちづくり審議会議事録

1 日時

平成24年3月8日（木）14:00～16:00

2 場所

井吹東地域福祉センター会議室（神戸市西区）

3 出席者

委員

山下会長、宇都宮委員、岡本委員、木谷委員、桐生委員、坂本委員、清水委員、
瀬渡委員、西田委員（代理：菅原県市長会参事）、山田委員

井吹台自治会連合会役員（6名）

県側

梅谷県民文化局長、廣田地域安全課長、大橋県警察本部警務部監察官

4 内容

(1) 現地視察

神戸市西区井吹台東町1丁目～4丁目（西神南駅～井吹東地域福祉センター）
を現地視察

(2) 井吹台自治会連合会の地域安全まちづくりの取組について

（A委員）

いろいろな所に見学に行かせていただいているのですが、いろんな課題をきちんと見つけて取り組まれている地域は大丈夫だなと思う。決して「してあげる」というものではなくて、地域の課題を見つけて、その課題をどなたと、どこの行政の方と一緒に組んでいち早く対処できたところがいいのかなと思っています。まちを見ていただきましたが、きれいなまちだと思っていただけたかなと思いますが、まだバブルの頃でしたので、今通られた中の建て売りでも9千万を超える家があったり

して、まちに入ってきた時はまだ大変若いまちでした。小学校がその時も1000名を超えて、西町が出来て、北町に分譲が始まってという中で、今、小学生が1,400名というところまで来ています。そのまちの課題なんです、やはり子ども達を守るということですが、昼間大人がいないんです。働きに出てしまっていますので昼間大人はいない。ところが子どもはいます。その中でどういうふうにして守っていくかとなると、先ほどの青パトなど一人の者がいくつか役割をしないとうまくいかないというのが、このまちの弱さだろうなと思います。

井吹台のまちづくりというなかでは、私たちが起こさなくても出来事が起こったということもテレクラの進出などいくつかあります。この時もテレクラってなんですかというところから始まりましたが、知事達に訴えると「今の時代、連合会の大きなハンコを押すんじゃなくて、一人ひとりが反対ですという時代に入ったんですよ。」といわれました。「じゃあ、私たちの街が反対と言えれば聞いていただけるんですね。条例は変わるんですね。」ということで、このまちはその時2万1千人だったんですが、10日間で3万を超える署名が集まりました。そのように同じ目的に向かって、「子ども達のためにこのまちにテレクラはいらない」というと「そうだよね」「いらないよね」という形で10日間で3万を超える署名を集める、それが本当にこのまちのまちづくりの基本になりました。やればできる、やったら条例でも変わるというのが、このまちの最初の人たちの意識の中にあります。その後も、震災があって仮設住宅が建つと仮設住宅の建材に毒グモが付いて入ってきた。それが大量発生してテレビや新聞で大きく流される。そうするとまちというのはすぐにパニックになります。隣同士も知らないニュータウンの中で、どこに頼っていったらいいかわからない。そういう状態の中でパニックを起こさないためにはシステムをどう整えたらいいのか。2時間以内にしっかりと相手に正しい情報を伝えるためにはどうしたらいいのか。マンションにはどうしたらいいのか。個別に放り込むのか、回覧を回すのか。いろいろなことが取り組まれました。そういうふうにして、いろいろなことが起こって、いろいろなものがあって、まちづくりが始まっています。

また、先ほど歩いてきた中心道路で、自転車やバイクでの「ひったくり」がすごく発生しました。どうしたらいいのかという中で、門灯点灯とか路上駐車ゼロとい

う取組をしました。自転車を使ってひったくりをしているけど、どこかに単車を置いてるんじゃないかということで、マンションに一齐に自転車のチェックをしてもらいました。そうしたら1つのマンションから、400世帯のマンションですが、200台近く使っていない自転車が出てきました。それをすることによって犯罪も減ります。でもある程度までは住民は努力できるんですが、それ以上はできないということにも気づきました。それ以上やるとやっているボランティアさん達もしんどくなって「これ以上できへんわ」となる。その場合にやっぱり警察がおられて、警察とどう連携するのか、警察に所属している組織がどう動くのか。それぞれが重なり合わないように、じょうずに連携して、穴を埋めていくということが必要になります。

でも、安心安全というのですが、門灯点灯して、街灯の球切れをチェックして、不法駐車を取り締まったら、まちづくりは安全安心ですかということそうではない。まちというのは総合力、デパートみたいなものだと言っているのですが、交流があったり、福祉があったり、子育てがあったり、祭りがあったり、いろんなものがあって初めてまちなんです。人は一人ひとり違うので、それぞれの問題を、ほんの少しずつでも頑張ってみんなでやっていくことで、「私の方も見てもらっている」「私たちの問題にも取り組んでもらっている」と思ってもらうのが、まちづくりの基本だと思います。ただこれをやっていくためには、連合自治会だけでいくらパトロールをやって、門灯点灯やってもダメなんです。この福祉センターに入っている老人会であったり、民生委員であったり、ボランティアであったり、NPOなどがそれぞれの担当のところで頑張っておいて、いろんな穴をきちんと埋めていただいているので、「まちづくりがよくできている」と言われるので、ある部分だけが突出しているというのは良くない。まちづくりは総合評価なので、どれも、少しずつでも努力しているということが大事かなと思います。

次に、うちのまちの自転車の取組についてですが、子ども達の自転車の事故が増え、駅前で自転車の盗難が増えたので、啓発活動をしました。また駅前の駐輪場のスタンプラリーをした。自転車の乗り方教室もした。先ほど幼稚園の前を通ってきたんですが、お母さん方が自転車の前と後に器用に子どもを乗せて集団で通っていきますので、そのお母さん方に「前と後ろに乗せるってどういうことですか」とい

う話をさせてもらったりもしました。そういうふうに、いろいろなものやところで「私たちはまちでこんなものに気をつけてるんですよ」と発信していきます。今年の小学校の新一年生が200人を超えるんですが、この4月にお父さんやお母さんに「あなたの子どもが初めて親の手を離れて一人で小学校に通われます。通学路を一緒に歩かれましたか」という交通安全教室を開くんです。こういうことをするとほんの少しだけですが、子ども達もお母さんも「ありがとう」って言っていただけるんです。その「ありがとう」はたかが「ありがとう」じゃないんですね。家の中でいろんなことを話してもらえます。これからパトロールなどもあります。連合自治会も夜やります。そういうときにその「ありがとう」は行動になって現れます。そういう一つ一つのありがとうは、まちづくりでは次に繋がっていきますので、それがすごく大事だと思います。

井吹台ではまちの工事が進んでいるんですが、それに対して、連合自治会と業者と間でお約束をします。子どもが登校する8時半までは車を入れない、工事は5時でお止め下さい、土日は大きな音は避けて下さい、といったいろいろなお約束をしていただき、そのうえで工事に入っていただきます。そのかわり地域からの苦情は一切連合自治会が引き受けます。個別に電話はできるだけかけません。地域からも配慮をして、こちらがやるべきことはきちんとやらせていただきます。一人の人がどんなに立派でもまちづくりはできません。「みんなが、一人ひとりが」という視点に立たなければまちづくりはできないんです。

県民交流広場でも地域の課題に取り組んでいます。「安心・安全」をテーマにやっています。高齢者や障害者の方も安心してこのまちに住むために、3年前から福祉避難訓練をしています。民生委員さん達が各家庭を回られて、避難をしましょうということで、一回目は施設との連携、2回目は聴覚障害者の方の避難訓練、3回目の今年は障害者を持つ家庭の避難ということで実施しました。訓練をしたからどうですかって言われるんですが、訓練をすることで意識が違います。「私たちのことも見守ってくれているんだな」ということが、大事だなと思っています。また県民交流広場で障害を持っている方をお預かりしているんですが、地域の中で預かってもらえるということなど、いろいろなことやいろいろなメニューがあって、初めてまちの安全・安心が広がっていくんだと思います。

また子ども110番の名簿をつくって地域の地図に落としています。それを、引越していないかなど1年後に確認していきます。こういうふうの一つひとつの安全・安心を維持していくのが大変難しい。たかが子ども110番のステッカー一つでも貼りっぱなしというのではダメで、こういうものを作って管理をしていかないと続きません。まちというのは、いろんなことがあって、いろんな方がおられて、いろんなものの考え方があって成り立っていますので、「これだ」って固まらないで、まちのものを柔軟に受け入れていきながら、ただどういうふうにやっていくのかについてはしっかりと方向性を示してやっていかなければいけないなと思います。

後ろにビラがありますが、これはここの福祉センターで行われている1年間の行事です。どなたでも参加できます。ただし抽選のものもあります。ここでお友達になってもらって、交流をしてもらって仲良く住んでいただくというための行事です。

「誰々さん最近見ないけどどうしてるんやろ」というふうに、みんなが繋がっていくということがまちづくりの基本かなと思います。

資料にある井吹台の自転車の犯罪件数ですが、2月現在5件になりました。できるだけ犯罪を出さないように警察の方にも協力してもらって、数字を押さえていきたいと思います。駐輪場は駅前ですのでそこで犯罪が起こるということは町全体に影響を及ぼしますので、できるだけ抑えていきたい。防犯カメラがあり、人の目があり、いろんな施策があって、いろんな行事をやって、啓発活動を行いながら自転車の犯罪件数を減らしていきたい。また、地域でもみんなで出し合って、駐輪場の地下にも防犯カメラをつけたいと考えています。それと24年度は人と自転車と車ということで、みんなが共存共栄して便利に使っていくためにはどういうふうにしたらいいのかということ、1年間かけて連合会で取り組んでいけたらと思っています。

(B委員)

先ほどのフィールドワークで、もし私が犯罪者であればどこで犯罪をするかなと思いつきながら歩いていて、ほとんどできる場所がなかったんですが、いくつか気になったところをお伺いします。1つ目は駐輪場なんですが、1階には監視室があったんですが2階はどうなっているのかということ、2つ目は光の広場の隣の事務所の近

くに自転車が何台か止めてあったのですが、その管理はどうなっているのか、3つ目は駅の近くの井吹台中公園は子ども達が遊んだりしているのかどうか、4つ目は子ども達の通学路について住宅以外に自動販売機とか駄菓子屋が見つけれなかったのですが、そういったものが子ども達にとって必要なのかどうかについてです。

(A委員)

まず駐輪場の2階についてですが、人はいません。あれは神戸市から委託を受けて管理されているんですが、人の配置は2名から3名がぎりぎりなので、1階は両側に人がいるんですが、2階や地下に人を置くとやっていけない。将来的にはせめて防犯カメラや人が動くにつく照明をつけるといったことをしたいと思っています。光の広場の自転車ですが今のところ撤去が行われており、条例で放置禁止区域となっているので今日は撤去がなかったですが、撤去がなされます。公園についてですが、井吹台は非常に公園が多く、公園を住宅が取り囲んでいますので住宅から見える位置にあります。ただ最近子ども達がスイミングスクールとか塾とかファミコンとかでほとんど公園で遊んでいない状況です。通学路についてですが、一番大きい通り沿いのお店にしてもいいということで売り出しをされたんですが店にされているところはない状況です。自動販売機を置くのにあまり賛成していないので、本当はお店があるというのがいいと思うのですが、お店をしていただける家がないという状況です。

(B委員)

駐輪場の2階の件ですが、奈良でフィールドワークしたときに、成人はここ、高校生はここ、中学生はここというふうに自転車を置く場所を限定して色分けをしていました。ほとんど自転車を盗むのは中学生か高校生で、しかも盗むという感覚ではなくて使い捨ての傘の感覚で借りるという感覚で持って行ってしまふ。ですので置く場所を分けるというアイデアもあるのかなと思いました。

(A委員)

井吹台は学生が多くて、学生が自転車のステッカーをめくってまた別の人の自転

車つけて、その人のを自分のところに付けるというような非常に良くない案件も発生しているので、今のご意見も入れながら取り組めたらと思います。

(C委員)

井吹台は出来て20年ということで古くなってきているというイメージで来たのですが、結構新しいイメージで元気なニュータウンだなと思いました。私の専門は住宅計画なので、その視点から見ているんですが、ここのニュータウンは防犯の視点もかなり入っているなと思いました。例えば集合住宅の窓がみんな道路に向くように配置されている。日本では20年ぐらい前からだんだんと集合住宅のデザインも防犯に配慮されるようになってきていて、そういう考えがずいぶん取り入れてられているなと思いました。

普通、団地形式というと南向きに建てる、もっと昔ですと羊羹を切ったように並べていくように建てるというのが団地のあり方だったんですが、そういうのではなくて、専用歩道に面していても棟を出してそこに窓をつけるといった配慮をされていました。ただプライバシーのことがあるのかカーテンが閉まっているところがありました。ただ、基盤として家から外が見える環境にあるので、より積極的に意識して、外の様子を窺いながらお住まいになると防犯性も高くなるのではないかなと思いました。それと一戸建ても塀の無い、いわゆるオープン外構が多くて、住宅侵入の不安をお持ちになるかもしれませんが、逆にそれをうまく生かすと家の前の見通しがいいのでお互いの家の前の気配を感じるという環境になるので、是非そういうことを意識してお住まいになるのがいいのではないかなと思いました。

(D委員)

井吹台北町など65才以上の方がほとんどいない場所があるということですが、20年ぐらい前に開発された時に井吹台に入られた所は結構高齢者が増えてきているということもあるんでしょうか？

(A委員)

ここの井吹台東町は20年経っているので高齢化して一人暮らしも増えてきてい

ます。逆に北町は若い方がほとんどで高齢者は探さないといない状態。ところが駅から向こうは1400戸の災害復興住宅が立っており、14年前に立ったときは高齢化率58%だったので、今は100%に近い状態です。そこでちゃんとした高齢者の見守りができれば日本国中でできるということで、その取組もちょっとお手伝いさせてもらっています。ということで町全体としてはいろんな状態になっている。やはり小学生にだけ取り組んでいたらいいというのではなくて、高齢化も進んでいるところもあり子育て真っ最中のところがありとバラエティに富んでいて、やりがいがあるんですけれど。

(E委員)

いろいろ見せていただいて、住宅地だけじゃなくて駅前とか大型商業施設を抱えている自治会というのは非常に大変そうだなというのが強い印象で、これだけ大きな人たちの中で活動をされていて、やはり商業施設であるとか駐輪場というのはなかなか目が届かないので、防犯カメラというのは目の届かないところには有効なのだと思います。また、駅前から学校に行く道がいろいろ問題があるということでしたが、僕らからすると歩車分離型で安全な町だなという印象ですが、これだけ人が増え自転車が増えるとあれだけ広い道があっても今度は自転車と人がなかなか一緒にできないんだというのが印象としてありました。単に真ん中に一本、線を引くだけでも人間の心理的に分かれるということを聞きますのでそういうことができれば多少違うかなと思います。あと、木が大きくなって外灯が暗いということでしたが、防犯のために正面から光が当たる方が顔が見えるということで、最近では低い街灯が出始めていて、そういうふうになると木は大きく成長するし、人の顔ははっきり見えるしということで、こういうところからどんどん言ってやっていただくと、他の地域にも繋がっていくんじゃないかなと思います。

先ほどおっしゃっておられた2時間以内にどういうふうにもうまく情報が発信できるかということについて、実際にどういう手段・方法があるのかということをお伺いしたい。

(A 委員)

連合自治会の中のまちづくりにミソがあって、年間150円、マンション80円の会費でやっていくので、いろんなシステムを駆使してやっていかないと発信していけない。普段から緊急のところに配布物を持って行くとか、マンションの管理人さんには緊急と書いた以上は今すぐ貼ってもらうとか、日頃から徹底しておかないといざというときに動かないということがあります。毎年4月に一斉に連合自治会の自治会の会長が替わるので、その時に、会長誰ですか、連合の会議に出てくる人は誰ですか、緊急回覧を回すのは誰ですかとか、掲示板個数とか回覧個数とか全てを書いてもらっています。ですから緊急回覧の人は、すぐに持って回ってくださいとなっているので、日頃からそういうふうにしていく工夫をしていく。それでもいざとなったらどこまで動くのか分かりませんが。それと、いろんな要望はすべてを聞けないので、連合自治会を通して全てを決めていく。いろんな意見は各種団体を通して上がってきますので、各団体で濾過されて、各単一自治会で濾過されて、連合自治会にあがってくる問題を取り組むという形になっています。

(F 委員)

ひったくりの話がありましたが、この場所で多いとか、特徴的な時間・場所があれば教えていただきたい。また防犯カメラが増えてきているということですが、付けることで今までなかった場所で犯罪が起こるといった犯罪が移動してしまう例があれば教えていただきたい。

(A 委員)

防犯カメラについては企業が入ってこられた時に防犯カメラの設置をお願いしていて、それで結構防犯カメラを付けてもらっています。それと玄関に防犯カメラを付けられている場合、ちょっとだけ道路側に振って下さいということをお願いをしています。ただ、どこに防犯カメラを付けていますと言って回っていないので、あまりここで減ったけれどここで増えたというのはありません。

それとひったくりについては、駅から上がってくる道が多いですね。銀行から来て、ちょうど人通りが少なくなったところでひったくりがあったわけですが、そこ

に街灯を増やしてもらったり、ビラやポスターで啓発しました。それと自転車を各マンションで点検してもらうことも大きい。マンションはそれぞれマンションのステッカーをはっているのですが、ステッカーの貼っていないものは撤去していただいています。

(G 委員)

リーダーシップ力ということが注目されていますが、いま神戸市で女性の連合自治会長はどれくらいいるのですか？

(A 委員)

あまりいないです。2割くらいでしょうか。西区では一人です。

(G 委員)

井吹台連合自治会は女性の会長だが、女性だと日々いろんなことが起こってくることに對して、一つだけ専門ということではなくて全部まとめて生きていく方向に舵をきらなければならず、とりあえずどんどん解決していく。でも名誉職的にトップになっている人だとそこに上げて時間だけ経ってよく訳が分からないようになってしまうということがある。私たちは時間とともに生きているので、自分が現状どおりというつもりでいても、常に前向きの姿勢を持っていないと時間によって強制的に過去に置き去りになってしまう。それを意識して日頃動くということが必要ではないかなと思う。そういう意味で問題が起こりそうになったら考えることを含めすぐ対応するということが非常に必要。ある意味では気楽に、深刻に考えない。えらい人は深刻に考えて、これがうまくいかなかったらということを考えて慎重になりがちだ。私たちは周辺にすごい人材をたくさん抱えているんだけど、そういう人たちの能力をうまく活かしておらず押さえ込んでいることが多いかもしれない。そうするとそれに適した人にどれだけいろんなことを振っていくかという振り分けの作業なんかも重要で、人の適性はやれば磨かれるわけで、上の人はずっと人材に振り分けていくことが大事ではないかと思う。

(H委員)

これだけ大きな単位自治会が集まった中で連合体として様々な活動していることは、かなりの温度差もあると思いますので非常に驚きました。是非続けていって頂きたいと思うし、見習っていききたい。

(会長)

あまり出来が良すぎると他がまねするのも難しいという面があるかもしれませんが、今日は本当に有益はお話をいただき、いくつか気づきもあったと思いますので、今後整理もして活かしていきたいと思います。今日はありがとうございました。

- 地域安全まちづくり審議会 終了 -